

自立支援・重度化防止の取組報告書

法人名	社会福祉法人 三幸福社会	事業所名	特別養護老人ホーム清華苑
			老人保健施設清華苑養力センター
			デイケアサービス清華苑すいすい
			清華苑デイサービスセンター 大久保苑
サービス種類	特別養護老人ホーム	事業所住所	明石市大久保町大窪3104-1
	介護老人保健施設		明石市大久保町大窪3107-5
	通所リハビリテーションデイケア		明石市大久保町大窪3107-5
	通所介護デイサービス		明石市大久保町大窪3104-1
	小規模多機能型居宅介護		明石市大久保町大窪字大畑544-1
取組分野		取組期間	令和7年2月～令和7年9月

機能訓練 リハビリテーション 口腔ケア 栄養ケア その他 ()

自立支援・重度化防止の取組（概要）

令和7年9月に神戸芸術工科大学とのコラボ企画として、当法人のご利用者をモデルに「シニアファッションショー養力コレクション」を開催した。ファッションショーへの参加をきっかけに生活意欲が向上した結果、通所リハビリでは自主的な取り組みを継続したことから更衣動作の獲得に繋がった事例を紹介する。

自立支援・重度化防止の取組（具体的内容）

タイトル	シニアファッションショーへの出演をきっかけとした生活意欲向上・更衣動作獲得
きっかけ (経緯)	杖歩行のA様（88歳・要介護度2・女性）は両肩に強い痛みを伴う可動域制限があり、自力で腕を持ち上げることが不可能で、自宅では2時間かけて着替えを行っていた。性格は努力家でありながらも、痛みを伴う肩の可動域制限はADLを阻害しA様を憂鬱にさせていた。そんなA様ですがいつもおしゃれにいろいろな服を着こなされており、ファッションショーの舞台上でランウェイを楽しんでいた。職員からの「シニアファッションショーYOURiki COLLECTION」へ参加する運びとなった。
取組の 特徴	シニアファッションショーは、当法人が令和元年から独自で取り組んでいる企画である。今回は神戸芸術工科大学とタイアップし単に衣装を着てランウェイするのではなく、若い頃実際に着ていた服をリメイクすることで、ご本人やご家族の思い出を「衣装」という型で蘇えらせることへ挑戦した。デザイン製作のプロの力を借りながら、衣装のデザインからショーのパフォーマンスまでをA様自身でマネジメントし、そんな時間を過ごす中で自己肯定感が高まり通所リハビリにおける活動意欲が向上した。

内容、事例（詳細）

1. 取り組み内容
- 【シニアファッションショー実行委員会の取り組み】
- 令和7年2月 神戸芸術工科大学担当者と初顔合わせ
 - 令和7年3月 モデルご利用者の服の選定開始
 - 令和7年5月 モデルご利用者ヒアリング・衣装制作開始
 - 令和7年5月 以降は月に1回ペースでヒアリングと衣装フィッティングを実施
 - 令和7年8月 ファッションショーリハーサル・衣装の最終チェック
 - 令和7年9月 シニアファッションショーYOURiki COLLECTION開催



【A様へのアプローチ】

A様より「自身のタンスに眠っている着物を使って衣装を制作したい。」と希望を聞き取り、リメイク用の着物を選定するためにA様の自宅に職員が同行訪問した。その後、事業所職員がヒアリングを実施し着物にまつわるエピソードやファッションショーで実現してみたいこと等を具体的に挙げていった。デザイン製作においては、A様が若い頃に大切に着ていた着物やお母様が着用されていた思い出の着物3枚を使い、ポンチョとパンツをオーダーし、納得がいくまで打ち合わせを重ねることで自身の納得する衣装が完成した。本番では依存していた杖を手放し、介護職員がA様に寄り添う形で華やかにレッドカーペットをランウェイし観客を感動させた。



2. 取り組み成果

当初、シニアファッションショーへの参加に対して「恥ずかしい、大丈夫かしら？」と戸惑いながらも職員の励ましや他利用者からの声掛けに、気持ちが前向きになり活動意欲が高まっていった。通所リハビリではマット編みへ興味を示され、初心者ながらも作業療法士の指導を受けながら作業工程を習得。通所リハビリ中は自主的にマット編みを実施し、手指の巧緻性だけでなく握力や上肢筋力が向上。それに伴い肩の痛みが減少し、自力で挙げる事が出来なかった右腕を自力で持ち上げるようになり生活面では更衣に係る時間が短縮されていった。ファッションショーが終了した現在も意欲的にマット編みを継続しており、現在は5枚目の座布団を制作中である。



3. 今回のマネジメントのポイント

A様の「やってみたい。」を実現するためにヒアリングを通して想いを深掘りし、着物の選定には職員が自宅を訪問した。衣装制作を進めるうえでは常にA様の想いに寄り添い、数回の衣装フィッティングを重ねA様の想いが形になる方法を多職種が協働して模索した。

4. データ

- ①右肩関節可動域が改善 (導入前) 右：10度 左：0度 (現在) 右：90度 左：10度
- ②更衣動作に要す時間が短縮 (導入前) 120分 (現在) 40分

5. まとめ、今後の展開

A様はファッションショーの出演をきっかけに、生活意欲が向上し自主性かつ積極性を取り戻した。通所リハビリではマット手芸へ取り組み続けた結果、更衣動作を獲得しただけでなく、自宅での簡単な調理、洗濯、整理整頓においても動作がスムーズになり、家事活動の時間が短縮している。それはA様にとって大きな喜びであり、身体的苦痛が軽減したことで今まで以上に通所リハビリへ意欲的に取り組まれている。

シニアファッションショー「YOURiki COLLECTION」を実施し、出演者は勿論、参加職員、観覧くださった多くの方々を動かすきっかけになったことを実感している。当イベントは単にショーを披露するためのものではなく、リハビリマネジメントの一環に位置付け多職種協働で取り組むからこそ、今回のA様のように生活行為能力が向上するという大きな成果をもたらしたと考えている。今後も、ご利用者ご家族の声に真摯に耳を傾け、社会福祉法人として求められることを追求し、地域に根差した法人であり続けられるよう様々な取り組みに挑戦していきたい。

